

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
国際文化理容美容専門 学校国分寺校	昭和52年1月14日	荘司 礼子	〒185-0022 東京都国分寺市南町3-22-14 (電話) 042-321-0002			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人国際文化学 園	昭和43年7月18日	平野 徹	〒150-0044 東京都渋谷区円山町24-8 (電話) 03-3462-1447			
目 的	企業等との協調体制をもって当該分野における実務に関する高度な知識、技術、技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
衛生	理容美容専門 課程	理容科	2年(昼)	2,177単位時間 (67単位)	平成12年2月8日 文部省告示第15号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	823単位時間 (24単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,354単位時間 (43単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	22人	8人	8人	16人		
学期制度	■1学期：4月1日から8月31日まで ■2学期：9月1日から12月31日まで ■3学期：1月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 別添「成績評価等に関する規定」に即 して評価を行う	
長期休み	■学年始め：4月1日から4月7日まで ■夏 季：8月1日から8月31日まで ■冬 季：12月25日から1月7日まで ■学 年 末：3月21日から3月31日まで			卒業・進級条件	別添「成績評価等に関する規定」第6 条(進級)及び第7条・第8条(卒業の 認定)に定める	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者を交え綿密な面談を行い欠席理由を 掌握、解決策を見出すべく努めている			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 理容室、理美容関連業界 ■就職率 ^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100% ■その他(任意) (平成26年度卒業者に関する平成27年3月時点の 情報)			主な資格・検定	理容師、日本エステティック協会認定 資格各種、日本ネイリスト検定試験セ ンター主催ネイリスト技能検定、日本 ネイリスト協会主催ジェルネイル技 能検定、日本メイクアップ連盟主催メ イクアップ検定	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 3.8%</p> <p>平成26年4月8日在学者26名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者25名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 身体的事由、進路変更、経済的事由 等</p> <p>■中退防止のための取組 日常のコミュニケーションを通じて個々の状況把握に努め適宜相談に応じ指導を行っている</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.kokusai.bunka.ac.jp</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

理美容業に関係する諸団体、企業等との協調を図りこれを背景に理美容業界全般及び各専門分野の動向、方向性、ニーズ等を把握分析した上で、授業内容方法の改善工夫を行い教育内容と実務を高度に繋ぐ実践的教育を施し、より高度な専門性を必要とする職業を担える人材を育成する

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 25 年 12 月 1 日現在

名 前	所 属
藤原 清巳	株式会社アリミノ
トニー タナカ	一般社団法人日本メイクアップ連盟
ヒロ・マツダ	マツダ商事株式会社
平野 徹	国際文化理容美容専門学校国分寺校
荘司 礼子	国際文化理容美容専門学校渋谷校
北本 義則	国際文化理容美容専門学校渋谷校
中川 勝利	国際文化理容美容専門学校国分寺校
金脊 敬文	国際文化理容美容専門学校渋谷校
竹田 政宏	国際文化理容美容専門学校渋谷校
米山 博司	国際文化理容美容専門学校国分寺校

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 9 月 25 日 17:00~18:00

第 2 回 平成 27 年 3 月 12 日 16:00~17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等との協調により当該企業等から講師を招いて行う実習等の授業により各専門分野における先端の実務的技術、知識、技能並びにそれを統合する能力を培う

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
コミュニケーション	日本古来の有職故実に基づく礼法、シミュレーション方式によるマナー、ネイティブ講師による英会話等を学び、コミュニケーション力を養う。	セイガンスピーク
芸術	クロッキー・デッサン(イメージ表現)、色彩学(色の基礎知識や心理効果)、写真技術(ヘアメイク撮影の基本的知識)を学ぶ。	小野寺俊晴
ヘルシーマネジメント	栄養学(食生活、食文化の考察)、東洋医学概論(中国発祥の経験医学の基礎部分)、化粧品心理学(化粧品の役割)を学ぶ。	土屋美穂

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の専門的技術、知識、技能向上の推進を図るため企業等と協調した講師紹介や各種講習会の資料提供、受講奨励、また学内における実務研修等を積極的に行う。教員各々の経験や職務内容に見合った研修を受講できるよう各研修の内容方法を系統的に整理体系化し、現況や時代の要請に即応した研修となるよう常に内容の見直しに努める

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 25 年 12 月 1 日現在

名 前	所 属
藤原 清巳	株式会社アリミノ
トニー タナカ	株式会社トニーズコレクション
ヒロ・マツダ	マツダ商事株式会社

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kokusaibunka.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.kokusaibunka.ac.jp>

授業科目等の概要

(理容美容専門課程 理容科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			関係法規・制度	理容師法を中心に、理容の業務に関わる法令や制度を学ぶ。国家資格である美容師という職業の社会的責任を学び、自覚する。	1通	39	1	○		
○			衛生管理	公衆衛生全般、特に、感染症、環境衛生等の知識を学ぶ。また、日常の業務に不可欠な消毒の意義、目的、および実際の消毒方法についても学ぶ。	1・2通	105	3	○		
○			理容保健	人体の構造・機能について学び、皮膚・毛髪などを生物化学的に理解する。理容の施術をするために不可欠の知識。	1・2通	138	4	○		
○			理容の物理・化学	施術の際に使用する器具や香粧品等を正しく取り扱う為に必要な知識を学ぶ。「物理・化学」は、様々な化学薬品や器具、道具を使用する上で不可欠。	1・2通	105	3	○		
○			理容文化論	施術上で必要な美的感覚と表現力を養う。ヘア、ファッションの歴史を勉強し、ヘアデザインなどに役立てる。	1・2通	105	3	○		
○			理容技術理論	理容業に用いられる器具や機械の種類、目的を理解し、正しい取り扱い方法を学ぶ。理容の基礎的な技術理論を実際に即して身につける。	1・2通	138	4	○		
○			理容運営管理	接客法や消費者への対応方法を身につけるとともに、マネージメントの基本を学び、理容業における運営上の管理手法を実践する。	2通	69	2	○		
○			理容実習	理容技術の基本操作を確実に身につけると共に、これらの基本操作を適宜組合わせて完成させる技術を習得する。	1・2通	858	27			○
合計					8科目	1557 単位時間 (47 単位)		

授業科目等の概要

(理容美容専門課程 理容科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
	○		コミュニケーション	日本古来の有職故実に基づく礼法、シミュレーション方式によるマナー、ネイティブ講師による英会話等を学び、コミュニケーション力を養う。	1・2通	62	2			○
	○		芸術	クロッキー・デッサン（イメージ表現）、色彩学（色の基礎知識や心理効果）、写真技術（ヘアメイク撮影の基本的知識）を学ぶ。	1・2通	62	2	△		○
	○		ファッションビジネス	テーマに応じたファッションのプランニング、ファッショントレンド（傾向）の分類・分析、TPO や媒体に合わせたヘアメイク等を学ぶ。	2通	62	2	○		△
	○		ヘルシーマネジメント	栄養学（食生活、食文化の考察）、東洋医学概論（中国発祥の経験医学の基礎部分）、化粧品心理学（化粧品の役割）を学ぶ。	1・2通	62	2	○		
	○		総合技術	理容技術、理容業に関連する技術の全般について、必修科目の内容を、より専門的に掘り下げて学ぶ。	2通	62	2			○
	○		アップ	各種メディア上でのヘアメイクを始め、和装・洋装婚礼の仕事に不可欠なアップスタイルテクニックの基礎力、応用力を習得する。	1・2通	62	2			○
	○		カット	実際のサロンニーズに即した実践的なカットのテクニック、スタイリング技術を習得する。	1・2通	62	2			○
	○		メイクアップデザイン	簡易な特殊メイクやエアブラシを用いたメイク法等、表現とテクニックのバリエーションを身につける。	1・2通	62	2			○
	○		カラーリング	実際のサロンニーズに即した実務レベルのカラーリング技術を習得する。	1・2通	62	2			○
	○		ネイルアート	業界の現状に即した、ネイルに関する各種の最新技術を身につける。	2通	62	2			○
合計					10 科目	620 単位時間 (20 単位)		